

阪神・淡路大震災から10年後の神戸

—震災追悼式・国連防災世界会議・メモリアルウォーク—



【図版 1】 2005. 1. 17-20. 東京工業大学 瀬尾和大

兵庫県主催による『阪神・淡路大震災10周年追悼式典』
—HAT神戸の屋外会場, 2005. 1. 17.—



【図版 2】



神戸市主催の震災追悼式
—ワールド記念ホール, 2005. 1. 17.—

【図版 3】



各種の報告会・パネル討論・トーク

【図版 4】



各種の展示と催し

【図版 5】



市中の震災モニュメント

【図版 6】



震災から10年後の街の様子

【図版 7】



阪神・淡路大震災
についての最近の
論評より

世界

【図版 8】

震災から10年を経過した神戸の印象 【図版 9】

- ★ 今回の盛大な行事(追悼式典と国連防災世界会議)は確かに素晴らしいものであったが、被災者側の住民感情としては、それらに対してやや冷やか(もしくは無関心)な側面も見られた。
- ★ 今回の会議は、スマトラ地震津波のインパクトが強く、それはそれで大変重要なことではあるが、阪神・淡路大震災から学ぶべき教訓の方は薄れてしまった印象が否めない。
- ★ 確かに神戸の街は復興を遂げ美しく再生した。特に三宮周辺やJR沿線・国道2号線沿線・2つの人工島などは見事に復活した。
- ★ その反面、長田区や東灘・灘区の阪神電鉄沿線には未だに空地が点在しており、真の復興は出来ていない。当初から避難復興で良しとする考えもあったが、地域によっては割合以下しか立ち直っていない。
- ★ 阪神・淡路大震災の犠牲者数(合計6433人とされている)の持つ重みはすでに薄れており、専門家さえ直接死と間接死の区別がつかなくなっている。また犠牲者としてカウントされた避難所での間接死と比べその後の震災復興住宅での独居死はウケムヤにされてしまった。
- ★ 今回の行事で復興支援にも区切りをつけたのではとの印象を持った。

2004年新潟県中越地震災害の 時間的推移と課題



ESEE検討会 2006. 2. 26.

東京工業大学 瀬尾和大

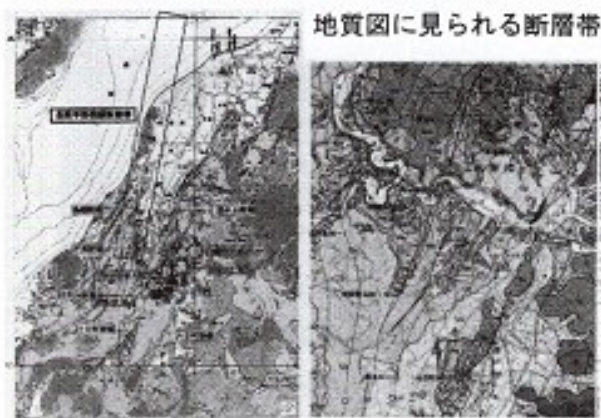
【図版 10】

2004年新潟県中越地震調査概要



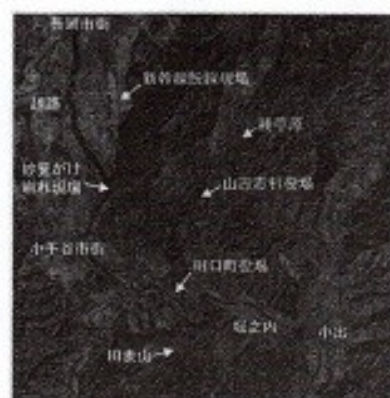
2004. 11. 6-7, 12. 5-7, 東京工業大学 瀬尾和大

【図版 11】



地質図に見られる断層帯

【図版 12】



ランドサット画像で見た被災地域 (1993. 11. 撮影)

【図 13】

出発時点 (11/6) での道路情報



道路情報 <http://fix.road.go.jp/niigata/>

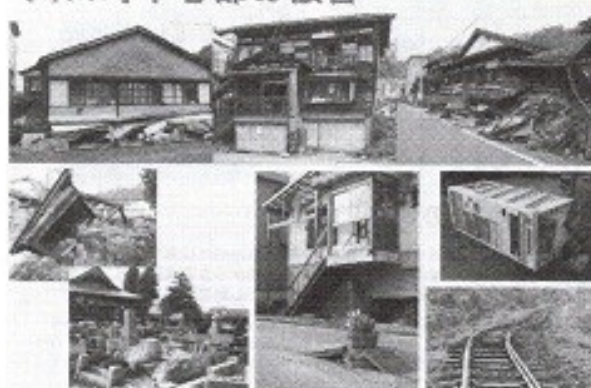
【図版 14】

北魚沼郡川口町とその周辺地域



【図版 15】

川口町中心部の被害



【図版 16】

川口町のある被災者宅



【図版 17】



【図版 18】



【図版 19】

川口一帯之内に激震ゾーン（新潟大学調査団・ト都厚志助教授）



【図版 20】

川口町和南津地区(左)と堀之内町新道島地区(右)



【図版 21】

小千谷市中心部の被害と避難・救援活動



【図版 22】

小千谷市中心部の被害



【図版 23】

小千谷小学校内の避難所

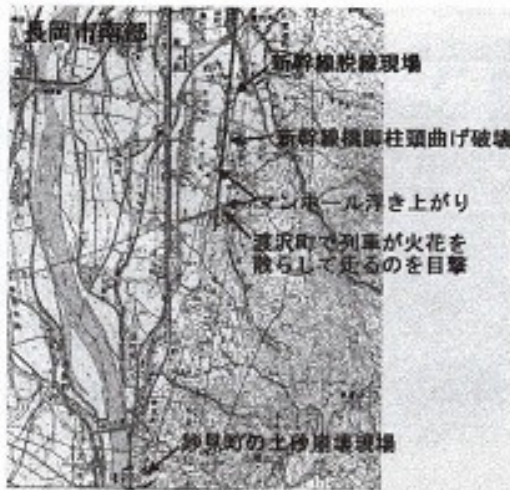


【図版 24】

小千谷市の冬支度(12/7)



【図版 25】



【図版 26】

長岡市妙見町の土砂崩壊現場



【図版 27】



【図版 28】

上越新幹線の被害 (川口町和南津)



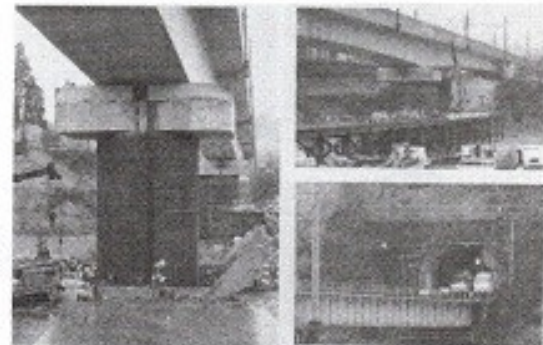
【図版 29】

撮影者：元木健太郎(10/29)



【図版 30】

年末の営業再開へ向けて—12月6日時点の状況—



【図版 31】

長岡市内に設置された山古志村役場仮事務所



【図版 32】



【図版 33】



【図版 34】



【図版 35】



【図版 36】



【図版 37】



【図版 38】



【図版 39】



【図版 40】



【図版 41】